

SuperCSI スタート!

CSI副理事長・運営委員長 相原 玲二
(広島大学情報メディア教育研究センター)



SuperCSI開始式 (2004年4月1日)

当協議会は、1993年3月に学術系地域インターネット運営任意団体として活動を開始し、主に大学等の研究機関や教育機関を対象にインターネット接続を提供するとともに、学術、研究、教育分野におけるネットワークコミュニティの健全な発展に貢献してきました。このたび、ブロードバンド時代におけるユビキタス社会を見据え、インターネット接続サービスの提供を中心とした活動を見直し、インターネット利活用技術の研究等に一層の重点を置くという新しい活動方針を決定しました。これにともない、当協議会が提供してきた「インターネット接続事業」および「イントラネット接続事業」のネットワークを、(株)NTTネオメイト中

国が独自に開発した高速・大容量の専用ネットワーク「AQStage広域イーサネット Academic Edition」上で実現し、その運用・保守・会員向ソリューション活動などを当協議会とNTT西日本グループが連携し、「SuperCSI」として提供することになりました。さらに、当協議会はこれまで実験的に実施してきた高品質動画伝送による遠隔授業や遠隔交流の成果をこのSuperCSIに活用し、IPv6、マルチキャスト技術などを取り入れたキャンパス間遠隔講義の実用化を推進するなど、先進的なインターネット利活用の開発に取り組みます。

2004年4月1日のサービス開始にあたり、NTT仁保ITデータセンター(広島市)を主会場とし、広島大学地域連携センター(東広島市)を遠隔会場として、SuperCSI開始式が挙行されました。両会場の接続には、広島大学・広島市立大学・当協議会等が2001~2003年度に実施した共同研究の成果物であるIPv6ハイビジョン映像伝送システムを使用し、SuperCSIが他に類例を見ない先進的ネットワークであることを実証しました。

当協議会は、新しい情報通信時代を先導するNPOとして、各方面と連携を密に保ちながら地域社会に貢献する活動を推進してゆく所存です。会員各位をはじめ多くの皆様方の、より一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



遠隔会場からの来賓挨拶

CSI役員・運営委員

理事長 吉田 典可
副理事長 相原 玲二、染岡 慎一
理事 片山 博昭、小関 祐二、西村浩二、前田 香織、前田 真理
監事 石永 正隆、大場 充
運営委員 相原 玲二(委員長)、前田 香織(副委員長)、今井 一雅、上野 優香、河野 英太郎、田島 浩一、玉井 基宏、椿 康和、西村 浩二、原田 隆、前田 真理

(2004年5月7日現在)



e-learningを役立てるために



広島市立大学名誉教授 大槻 説 乎

ネットワークの普及と教育改革の波に押されて、日本の大学でもe-learningを本格使用するための準備を進めるところが増えています。既に実施している大学では、学生から「無いよりはまし」、「復習に役立つ」などの声が多く聞かれるようです。どうすればe-learningを上手に役立てることができるのでしょうか。

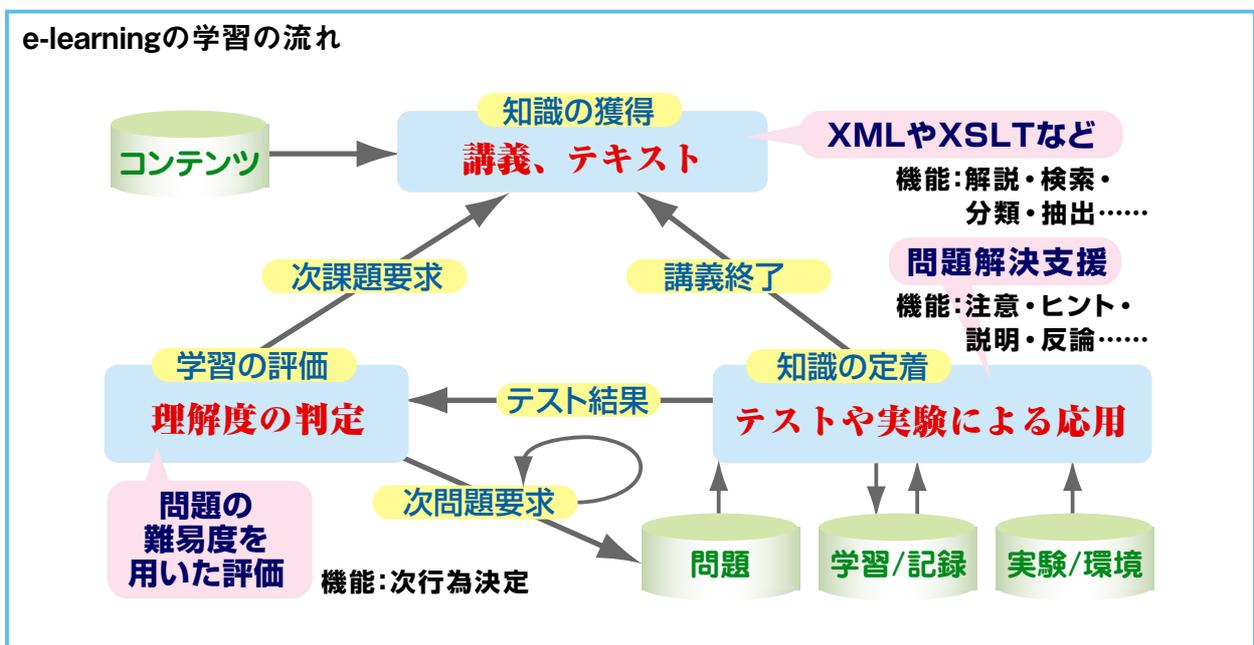
一般に学習は下図のように、3つの過程に分けることができるとわれています。第1は、学習者が知らなかった課題について説明を受けたり観察したりして、新しい概念を獲得する過程です。第2は獲得した知識を定着させ、応用できるようにするために、テストや実験によって問題解決を行う訓練過程です。第3は問題解決の結果から学習者の理解度を評価して、もっと課題の説明や問題解決を続けるか、新しい課題に移るかを決定する評価過程です。

e-learningのコンテンツを選ぶときは、3つの過程のそれぞれに注意する必要があります。概念獲得過程では、テキストやアニメーションの検索、参照、抽出などの操作機能を備えているものが良いでしょう。XMLやXSLTなどを使って記述されたものは、この機能に加え、優れたマルチベンダー性をもっています。訓練過程では、個人差が大きい学習者の誤解や疑問点などに対応する柔軟さが必要で、問題解決時に質問応答ができ、問題や実験の難易度と学習記録が学習者に開示されると非常に有用です。知識処理技術を使ったものはこの点で高い能力を持っています。学習の評価過程では、どのような方法を使っているか、信頼度はどの程度かを調べるのが大切です。

もちろん、e-learningの学習に、常に三つの過程を含む必要はありません。用途に応じて、必要な部分を組み合わせて利用すればよいわけです。第1過程ではベテランの教師による講義に、コンテンツの検索分類などの機能を利用すると、応用例、経験談なども手軽に参照でき、分からない部分を詳しく調べることもできます。もちろん、この知識獲得過程は、復習にも、独学にも大いに役立つはずですよ。

語学やパソコン、プログラミングなどの入門学習では、反復練習が重要な役割を果たします。訓練過程を中心に学習し、評価過程で習熟度の評価を行えば、反復練習の効果をあげることができます。

ぜひ、e-learningのコンテンツを上手に選んで、みんなで効果的に使う方法を工夫し、広く経験を交流し合ひましょう。



「CSIインターネット利用研究会2004」開催報告

理事・運営委員・利用促進部会副査 前田 真理
(広島市立白島小学校)

2003年12月25日、運用技術部会との共催で「CSIインターネット利用研究会2004」を広島市まちづくり市民交流プラザ(広島市中区)にて開催し、約60名の方にご参加頂きました。

今回は招待講演に大槻説乎氏(広島市立大学名誉教授)を講師としてお招きし、「e-Learning -新しい仕組みと実現への道程-」を演題にネットワークを活用する今後の教育のあり方について語っていただきました。一般発表では7件の研究発表がありました。先進的な実践実験だけでなく、長期的な展望に立つ交流やイントラネットの活用によって児童生徒の「心を育てる」取り組みや、電子会議室による官民協働プロジェクトといった従来にないご発表があり、好評をいただきました。また会場では認証つき無線LANのデモンストレーションがありました。

研究会の様子は<http://www.csi.ad.jp/activity/CSI2004/houkoku.html>にも掲載しておりますので、ご覧ください。利用促進部会は本年度も研究会開催を計画しております。皆様のご発表ご参加をお待ちしております。



大槻先生の招待講演



一般発表



会場の様子

会員紹介シリーズ No.8

高知工業高等専門学校

(<http://www.kochi-ct.ac.jp/>)

高知高専は、ちょうど10年前の平成6年(1994年)に中国・四国インターネット協議会(CSI)の会員となり、CSI高知NOCである高知大学情報処理センターに64kbpsという速度の専用デジタル回線で結ばれ、学内でのインターネットの利用を始めまし

た。その当時は、日本におけるインターネット時代がまさに始まろうという時期でもありました。高知高専は、全国の高専の中でもまだ珍しかったホームページを平成7年に正式に公開し、平成8年度に新設された文部省の国立大学等優秀広報紙「ホームページ(インターネット)の部」の高専の部で「最優秀賞」を頂くという幸運にも恵まれました。

高知高専の学内LANは、平成14年3月にATM光ネットワークからギガビットネットワークに移行し、全国最大級のキャンパス無線LANも立ち上がりました。一方、対外接続の方は今年の4月に高知県新情報ハイウェイと100Mbpsで接続し、SuperCSIによりSINET(10Mbps)経由でインターネット接続をするという新しい時代を迎えました。特に高知県新情報ハイウェイの教育ネットでは、高知県下のほとんどの中学校が10Mbpsに接続されておりますので、高知高専と高知県下の中学校との高速ネットによる新しい連携がこれからスタートしようとしているところです。(文責:今井一雅)



高知高専の全景

【事務局便り】

CSI事務局の移転について

CSI事務局長 染岡 慎一（安田女子大学）

SuperCSIへの接続移行もほぼ終了し、CSIは、NPO本来の事業に専念すべく新しい体制作りを進めております。4月より、八丁堀職町会館のひろしまNPOセンター内に事務所スペースを確保し、徐々に移転を進めています。

現在のCSI事務局は、これまでの接続事業の残務処理がまだ多く残っているため、9月まで維持しますが、残務処理が終了する9月以降は、NPOセンター内の事務所スペースが新しいCSI事務局となります。事務局の電話番号、電子メールアドレス等に変更されない予定ですが、9月以降、事務局所在地(住所)が「〒730-0013 広島市中区八丁堀3-1職会館2F 特定非営利活動法人中国・四国インターネット協議会」となります。

また、NPOセンター事務局担当として、山中裕美子さん(写真右)に来ていただきましたのでご紹介いたします。事務引継ぎが終了する9月以降は、山中さん一人で事務局窓口を担当してもらう事になりますので、皆様よろしくお願いたします。

写真左の北地智恵さんには、従来よりCSIのWebページのメンテナンスを担当してもらっています。今年度より、CSIのWebページで団体会員紹介欄にバナー広告を掲載できるようにいたしました。この仕事は北地さん、山中さんが中心となって担当しています。

特に、接続会員の皆様には、昨年度まで、接続事業に関わる様々な事務処理に関しまして大変お世話になりありがとうございました。今年度より、CSI事務局は新体制のもとで、新たな活動に取り組んでまいりたいと考えております。皆様どうぞよろしくお願いたします。



CSI会員紹介（2004年5月7日現在）

団体会員（23組織）*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#dantai>

学校法人広島国際学院、学校法人高知工科大学、学校法人福山大学、株式会社ネットスプリング、株式会社広島市産業情報サービス、株式会社ラディックス、呉大学、県立広島女子大学、高知工業高等専門学校、高知女子大学、財団法人放射線影響研究所、日本赤十字広島看護大学、ネットワン・システムズ株式会社、比治山大学、広島大学、広島県立大学、広島県立保健福祉大学、広島市、広島市立大学、広島商船高等専門学校（マルチメディア時代における教育研究会）、福山平成大学、安田女子大学、弓削商船高等専門学校

賛助会員（11組織）*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#sanjo>

伊藤忠テクノサイエンス株式会社、株式会社内田洋行株式会社、ジャストシステム株式会社、日立製作所中国支社、株式会社ミウラ、総務省中国総合通信局、株式会社エネルギー・コミュニケーションズ、中国電力株式会社、西日本電信電話株式会社広島支店、日商エレクトロニクス株式会社中国支店、日本電子計算株式会社

個人正会員（45名） <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#kojin>

編集後記

新しい年度を迎え、いよいよSuperCSIがスタートしました。今までのCSIの良い点を引き継ぎながらチャレンジをしていくこととなります。事務局をはじめ新しい体制になった所もあります。今後とも会員の皆様のご協力を頂きながら発展させていきたいと思っております。（EK）

2004年5月20日 企画広報部会・広報誌編集担当 今井一雅、河野英太郎、上野優香

